

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校ビーマックス
設置者名	学校法人武田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務 専門課程	エアライン学科	夜・通信	984 時間	160 時間	
	ブライダル・ホテル学科	夜・通信	707 時間	160 時間	
	公務員学科	夜・通信		160 時間	※
	公務員学科 (1年課程)	夜・通信		80 時間	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Web 公開 <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由) 公務員試験受験を主たる目的とする学科のため、指導科目において実務経験を有する教員を配置することが困難である。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校ビーマックス
設置者名	学校法人 武田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

Web 公開 <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	衆議院議員	2023. 3. 25 2025. 3. 24	組織運営や業務執行へのチェック機能を担う。 各施策の立案・実施に際し、専門知識や知見をもとに助言を得ている
非常勤	弁護士	2023. 3. 25 2025. 3. 24	組織運営や業務執行へのチェック機能を担う。 各施策の立案・実施に際し、専門知識や知見をもとに助言を得ている
非常勤	建築設計事務所所長 一級建築士	2023. 3. 25 2025. 3. 24	組織運営や業務執行へのチェック機能を担う。 各施策の立案・実施に際し、専門知識や知見をもとに助言を得ている
非常勤	オフィス事務用品 会長	2023. 3. 25 2025. 3. 24	組織運営や業務執行へのチェック機能を担う。 各施策の立案・実施に際し、専門知識や知見をもとに助言を得ている
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校ビーマックス
設置者名	学校法人武田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全体共通科目は各科目実施委員会主管、一般科目、専門科目は学科が主管となり1月～2月までに年間カリキュラムを決定する。(9月頃実施予定の教育課程編成委員会で頂戴するご意見を反映して作成)</p> <p>科目担当講師が共通フォーマットをもとにシラバス(授業計画書)を作成し、年度開始時に受講学生への配布、ホームページ上に公開する予定にしている。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>Web 公開  <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(単位認定方法) 出席率が80%以上の場合に、単位認定試験を行いそれに合格した場合または、課題や制作物を提出し、それが認められた場合与えられる。ただし、シラバスに特別に明記されている場合はこの限りではない。シラバスに追試験を実施すると表記している科目は、追試験を実施する。ただし、追試験においても合格点に満たなかった者または、正当な理由なく追試験を欠席あるいは遅刻をした者の単位を認定しない。</p> <p>シラバスに定められている認定方法に従った成績(得点等)をもとに、S90点以上・A80点以上・B79点～70点・C69点～50点・D50点未満の5段階で評価する。シラバスにこれ以外の評価基準が明記されている場合はその基準で評価を行う。追試験での合格の場合は、本試験における得点で表記し、評価を一律 C とする</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価

評点	評価	合否	GP
100～90	S	合格	4
89～80	A	合格	3
79～70	B	合格	2
69～50	C	合格	1
49～0	D	不合格	0

S・A・B・C・Dの成績評価とともにGPAを算出し、各学科の下位1/4が明確になるように設定している。

**GPA算出計算式 (平均評価ポイント)**

$$4.0 \times S \text{の単位数} + 3.0 \times A \text{の単位数} + 2.0 \times B \text{の単位数} + 1.0 \times C \text{の単位数}$$

-----  
 総履修科目単位数 (D評価の単位数を含む)

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

Web 公開  
<https://www.be-max.ac.jp/release/17655/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校は以下の条件を全て満たした者に卒業を認定する

- ・卒業認定時間数を取得している者 (2年課程 1,710 時間、1年課程 855 時間)
- ・学校が指定する卒業必須資格を全て取得している者
- ・所属学科、コースが指定する卒業必須資格を全て取得している者

なお卒業、進級については教務委員会で審議するものとし、条件を満たせない学生は、留年扱いとする。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

Web 公開  
<https://www.be-max.ac.jp/release/17655/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校ビーマックス
設置者名	学校法人武田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	Web 公開 <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a>
収支計算書又は損益計算書	Web 公開 <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a>
財産目録	Web 公開 <a href="https://www.be-ax.ac.jp/release/17655/">https://www.be-ax.ac.jp/release/17655/</a>
事業報告書	Web 公開 <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a>
監事による監査報告（書）	Web 公開 <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	エアライン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,918 単位時間/単位	732 単位時間 /単位	853 単位時間 /単位	333 単位時間 /単位	1,918 単位時間/単位	
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	29人	人	3人	人	3人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>全体共通科目は各科目実施委員会主管、一般科目、専門科目は学科が主管となり1月～2月までに年間カリキュラムを決定する。（9月頃実施予定の教育課程編成委員会で頂戴するご意見を反映して作成）</p> <p>科目担当講師が共通フォーマットをもとにシラバス（授業計画書）を作成し、年度開始時に受講学生への配布、ホームページ上に公開する予定にしている。</p>

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価

評点	評価	合否	GP
100～90	S	合格	4
89～80	A	合格	3
79～70	B	合格	2
69～50	C	合格	1
49～0	D	不合格	0

S・A・B・C・D の成績評価とともに GPA を算出し、各学科の下位 1/4 が明確になるように設定している。

**GPA算出計算式 (平均評価ポイント)**

$$4.0 \times S \text{の単位数} + 3.0 \times A \text{の単位数} + 2.0 \times B \text{の単位数} + 1.0 \times C \text{の単位数}$$

---

総履修科目単位数 (D評価の単位数を含む)

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校は以下の条件を全て満たした者に卒業を認定する

- ・卒業認定時間数を取得している者 (2年課程 1,710 時間、1年課程 855 時間)
  - ・学校が指定する卒業必須資格を全て取得している者
  - ・所属学科、コースが指定する卒業必須資格を全て取得している者
- なお卒業、進級については教務委員会で審議するものとし、条件を満たせない学生は、留年扱いとする。

学修支援等

(概要)

学生の習熟度を図りながら講義は展開しており、資格試験前等には補講も行う。また、学科以外の教員と面接練習等が可能であり、幅広く学生を指導できる体制を整えている。入学前、入学後には三者面談を行い修学等の開示を行う。

卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	人 ( %)	8人 (100%)	人 ( %)

(主な就職、業界等)

就職先：株式会社 JAL スカイ、ANA エアポートサービス株式会社、ANA 中部空港株式会社、株式会社韓進インターナショナルジャパン、両備ホールディングス株式会社、株式会社エアトラベル徳島、四国航空株式会社、広電エアサポート株式会社

業界：航空業界

<p>(就職指導内容)</p> <p>業界出身者の担任教員等と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望と業界ニーズをマッチングさせている。また、業界希望の学生には担任が履歴書の添削、面接練習を徹底し、業界以外を希望の学生には、キャリア支援センターが就職サポートをしている。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>語学関連資格(実用英語技能検定、TOEIC、中国語検定)、マナー・プロトコール検定、サービス介助士検定、ニュース時事能力検定他</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	1人	4.8%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学習意欲の減退</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任制を導入しているため、学生とのコミュニケーションを積極的に図りながら、年に数回は個人面談を行う。授業の出席状況やモチベーションの動向、成績状況から早期発見を行い、家族との連携や学科教員等で共有し対策を図っている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	ブライダル・ホテル 学科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,976 単位時間/単位	500 単位時間 /単位	996 単位時間 /単位	480 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,976 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	54人	0人	2人	0人	2人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																								
<p>(概要)</p> <p>全体共通科目は各科目実施委員会主管、一般科目、専門科目は学科が主管となり 1月～2月までに年間カリキュラムを決定する。(9月頃実施予定の教育課程編成委員会で頂戴するご意見を反映して作成)</p> <p>科目担当講師が共通フォーマットをもとにシラバス(授業計画書)を作成し、年度開始時に受講学生への配布、ホームページ上に公開する予定にしている。</p>																								
成績評価の基準・方法																								
<p>(概要)</p> <p>成績評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評点</th> <th>評価</th> <th>合否</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～90</td> <td>S</td> <td>合格</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>89～80</td> <td>A</td> <td>合格</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>79～70</td> <td>B</td> <td>合格</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>69～50</td> <td>C</td> <td>合格</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>49～0</td> <td>D</td> <td>不合格</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>S・A・B・C・D の成績評価とともに GPA を算出し、各学科の下位 1/4 が明確になるように設定している。</p> <p><b>GPA算出計算式 (平均評価ポイント)</b></p> $\frac{4.0 \times S \text{の単位数} + 3.0 \times A \text{の単位数} + 2.0 \times B \text{の単位数} + 1.0 \times C \text{の単位数}}{\text{総履修科目単位数 (D評価の単位数を含む)}}$	評点	評価	合否	GP	100～90	S	合格	4	89～80	A	合格	3	79～70	B	合格	2	69～50	C	合格	1	49～0	D	不合格	0
評点	評価	合否	GP																					
100～90	S	合格	4																					
89～80	A	合格	3																					
79～70	B	合格	2																					
69～50	C	合格	1																					
49～0	D	不合格	0																					
卒業・進級の認定基準																								
<p>(概要)</p> <p>本校は以下の条件を全て満たした者に卒業を認定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業認定時間数を取得している者 (2年課程 1,710時間、1年課程 855時間)</li> <li>学校が指定する卒業必須資格を全て取得している者</li> <li>所属学科、コースが指定する卒業必須資格を全て取得している者</li> </ul> <p>なお卒業、進級については教務委員会で審議するものとし、条件を満たせない学生は、留年扱いとする。</p>																								



学修支援等
(概要) 学生の習熟度を図りながら講義は展開しており、資格試験前等には補講も行う。また、学科以外の教員と面接練習等が可能であり、幅広く学生を指導できる体制を整えている。入学前、入学後には三者面談を行い修学等の開示を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 就職先：ヒルトン福岡シーホーク、ANAクラウンプラザホテル岡山、ホテルグランヴィア岡山、ホテルモンテレ株式会社、株式会社日本セレモニー、ラヴィール岡山、グランラセーレの森、有限会社フローレス、株式会社三松、株式会社パートナーズ、株式会社かに道楽等 業界：ホテル、ブライダル業界			
(就職指導内容) 業界出身者の担任教員等と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望と業界ニーズをマッチングさせている。また、業界希望の学生には担任が履歴書の添削、面接練習を徹底し、業界以外の希望学生にはキャリア支援センターが就職サポートをしている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ブライダルコーディネーター技能検定、ホテルビジネス実務検定、マナー・プロトコール検定、サービス介助士検定、ニュース時事能力検定他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38人	1人	2.6%
(中途退学の主な理由) 学習意欲の減退		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制を導入しているため、学生とのコミュニケーションを積極的に図りながら、年に数回は個人面談を行う。授業の出席状況やモチベーションの動向、成績状況から早期発見を行い、家族との連携や学科教員等で共有し対策を図っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	公務員学科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,037 単位時間/単位	774 単位時間 /単位	1,097 単位時間 /単位	166 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,037 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	77人	0人	6人	人	6人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																								
<p>(概要)</p> <p>全体共通科目は各科目実施委員会主管、一般科目、専門科目は学科が主管となり 1月～2月までに年間カリキュラムを決定する。(9月頃実施予定の教育課程編成委員会で頂戴するご意見を反映して作成)</p> <p>科目担当講師が共通フォーマットをもとにシラバス(授業計画書)を作成し、年度開始時に受講学生への配布、ホームページ上に公開する予定にしている。</p>																								
成績評価の基準・方法																								
<p>(概要)</p> <p style="text-align: center;">成績評価</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>評点</th> <th>評価</th> <th>合否</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～90</td> <td>S</td> <td>合格</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>89～80</td> <td>A</td> <td>合格</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>79～70</td> <td>B</td> <td>合格</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>69～50</td> <td>C</td> <td>合格</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>49～0</td> <td>D</td> <td>不合格</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>S・A・B・C・D の成績評価とともに GPA を算出し、各学科の下位 1/4 が明確になるように設定している。</p> <p style="text-align: center;"><b>GPA算出計算式 (平均評価ポイント)</b></p> $\frac{4.0 \times S \text{の単位数} + 3.0 \times A \text{の単位数} + 2.0 \times B \text{の単位数} + 1.0 \times C \text{の単位数}}{\text{総履修科目単位数 (D評価の単位数を含む)}}$	評点	評価	合否	GP	100～90	S	合格	4	89～80	A	合格	3	79～70	B	合格	2	69～50	C	合格	1	49～0	D	不合格	0
評点	評価	合否	GP																					
100～90	S	合格	4																					
89～80	A	合格	3																					
79～70	B	合格	2																					
69～50	C	合格	1																					
49～0	D	不合格	0																					
卒業・進級の認定基準																								
<p>(概要)</p> <p>本校は以下の条件を全て満たした者に卒業を認定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業認定時間数を取得している者 (2年課程 1,710時間、1年課程 855時間)</li> <li>学校が指定する卒業必須資格を全て取得している者</li> <li>所属学科、コースが指定する卒業必須資格を全て取得している者</li> </ul> <p>なお卒業、進級については教務委員会で審議するものとし、条件を満たせない学生は、留年扱いとする。</p>																								

学修支援等 (概要) 学生の習熟度を図りながら講義は展開しており、講義内で確認テストを繰り返し実施することで学生自身も学習成果を確認できている。また、教員は学習成果により、補習を実施し下位層の学生の支援も行っている。入学前、入学後には三者面談を行い修学等の開示を行う。
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
38人 (100%)	0人 (0%)	35人 (92.1%)	3人 (7.9%)
(主な就職、業界等) 就職先: 国家公務員、県・市役所職員、警察官、消防官、自衛官他			
(就職指導内容) 担任教員等と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望をマッチングさせている。また、担任教員とキャリア支援センターが連携し学生の履歴書の添削、面接練習等をして希望の業界に就職できるようにサポートしている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ニュース時事能力検定、ビジネス能力検定、MOS検定、日本漢字能力検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86人	5人	5.8%
(中途退学の主な理由) 公務員試験合格(1名)、学習意欲の減退、双極性感情障害		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制を導入しているため、学生とのコミュニケーションを積極的に図りながら、年に数回は個人面談を行う。授業の出席状況やモチベーションの動向、成績状況から早期発見を行い、家族との連携や学科教員等で共有し対策を図っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	公務員学科	—	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,048 単位時間/単位	432 単位時間 /単位	556 単位時間 /単位	60 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		1,048 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	14人	0人	6人	人	6人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																								
<p>(概要)</p> <p>全体共通科目は各科目実施委員会主管、一般科目、専門科目は学科が主管となり 1月～2月までに年間カリキュラムを決定する。(9月頃実施予定の教育課程編成委員会で頂戴するご意見を反映して作成)</p> <p>科目担当講師が共通フォーマットをもとにシラバス(授業計画書)を作成し、年度開始時に受講学生への配布、ホームページ上に公開する予定にしている。</p>																								
成績評価の基準・方法																								
<p>(概要)</p> <p style="text-align: center;">成績評価</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>評点</th> <th>評価</th> <th>合否</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～90</td> <td>S</td> <td>合格</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>89～80</td> <td>A</td> <td>合格</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>79～70</td> <td>B</td> <td>合格</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>69～50</td> <td>C</td> <td>合格</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>49～0</td> <td>D</td> <td>不合格</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>S・A・B・C・D の成績評価とともに GPA を算出し、各学科の下位 1/4 が明確になるように設定している。</p> <p style="text-align: center;"><b>GPA算出計算式 (平均評価ポイント)</b></p> $\frac{4.0 \times S \text{の単位数} + 3.0 \times A \text{の単位数} + 2.0 \times B \text{の単位数} + 1.0 \times C \text{の単位数}}{\text{総履修科目単位数 (D評価の単位数を含む)}}$	評点	評価	合否	GP	100～90	S	合格	4	89～80	A	合格	3	79～70	B	合格	2	69～50	C	合格	1	49～0	D	不合格	0
評点	評価	合否	GP																					
100～90	S	合格	4																					
89～80	A	合格	3																					
79～70	B	合格	2																					
69～50	C	合格	1																					
49～0	D	不合格	0																					
卒業・進級の認定基準																								
<p>(概要)</p> <p>本校は以下の条件を全て満たした者に卒業を認定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業認定時間数を取得している者 (2年課程 1,710 時間、1年課程 855 時間)</li> <li>学校が指定する卒業必須資格を全て取得している者</li> <li>所属学科、コースが指定する卒業必須資格を全て取得している者</li> </ul> <p>なお卒業、進級については教務委員会で審議するものとし、条件を満たせない学生は、留年扱いとする。</p>																								

学修支援等 (概要) 学生の習熟度を図りながら講義は展開しており、講義内で確認テストを繰り返し実施することで学生自身も学習成果を確認できている。また、教員は学習成果により、補習を実施し下位層の学生の支援も行っている。入学前、入学後には三者面談を行い修学等の開示を行う。
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	4人 (13.8%)	24人 (82.8%)	1人 (3.4%)
(主な就職、業界等) 就職先: 国家公務員、県・市役所職員、警察官、消防官、自衛官他			
(就職指導内容) 担任教員等と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望をマッチングさせている。また、担任教員とキャリア支援センターが連携し学生の履歴書の添削、面接練習等をして希望の業界に就職できるようにサポートしている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ニュース時事能力検定、ビジネス能力検定、MOS検定、日本漢字能力検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制を導入しているため、学生とのコミュニケーションを積極的に図りながら、年に数回は個人面談を行う。授業の出席状況やモチベーションの動向、成績状況から早期発見を行い、家族との連携や学科教員等で共有し対策を図っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
エアライン学科	150,000 円	520,000 円	250,000 円	その他 (設備維持費)
ブライダル・ホテル学科	150,000 円	480,000 円	250,000 円	同上
公務員学科	150,000 円	500,000 円	250,000 円	同上
公務員学科	150,000 円	520,000 円	250,000 円	同上
修学支援 (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特待生制度：入学時に審査を行い A 特待生 30 万免除、B 特待生 20 万免除、C 特待生 10 万免除、D 特待生 5 万免除、特別特待生最大 50 万 (※金額設定は審査により決定)</li> <li>・ 進級時特待生制度：進級時に審査を行う (金額設定は特待生制度と同様)</li> <li>・ 資格・検定特待生制度： <ul style="list-style-type: none"> <li>C 特待生 10 万免除： (実用英語技能検定準 1 級以上、TOEIC500 点以上、日本商工会議所簿記 2 級)</li> <li>D 特待生 5 万免除： (実用英語技能検定 2 級、全国商業高等学校英語検定 1 級、TOEIC400 点以上、IT パスポート、全国工業高等学校校長協会情報技術検定 1 級他)</li> </ul> </li> <li>・ ウェーブハウス奨学金制度：入学時に審査を行う 最大 30 万支給</li> </ul>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
Web 公開 <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>毎年本校の教育活動及び学校運営全般について自己点検評価を実施し、さらに自己点検評価結果の客観性・透明性について、関係企業、卒業生、地域関係者、高等学校教員などの学校関係者より意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的としている。</p> <p>学校関係者評価委員会は、定数 6 名で年 1 回以上開催し、主に学校運営項目 (家族、学生の意見状況等) や学修成果評価 (就職、離職状況等) において意見をいただいている。意見については責任者を校長として改善計画を策定し、理事会等にも報告をし、次年度の教育活動や学校運営の改善に活用している。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
税理士法人エフ・エム・エス 代表社員税理士	2024. 4. 1 2026. 3. 31	専門家等委員 卒業生
社会医療法人社団十全会 心臓病センター榊原病院 財務担当所属長	2024. 4. 1 2026. 3. 31	企業等委員 卒業生
防衛省自衛隊岡山地方協力本部 所長	2024. 4. 1 2026. 3. 31	企業等委員
岡山県立高等学校 教員	2024. 4. 1 2025. 3. 31	高校等委員

株式会社レイ 常務取締役	2024. 4. 1 2026. 3. 31	企業等委員
岡山寿郵便局 局長	2024. 4. 1 2026. 3. 31	専門家等委員 地域住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) Web 公開 <a href="https://www.be-max.ac.jp/release/17655/">https://www.be-max.ac.jp/release/17655/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.be-max.ac.jp/">https://www.be-max.ac.jp/</a>
--